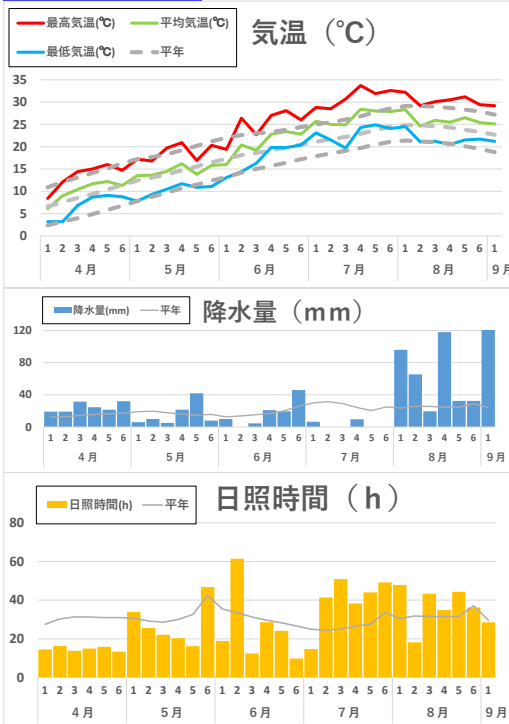


刈取適期の判断を行い、計画的な作業に努めましょう

1 気象経過と生育状況

【気象経過】 これまでの気象経過（アメダスポイント：能代）



生育期間中の気温は、4月は高温傾向だったものの、5月下旬は平年に比べ低温傾向で推移しました。6月2半旬から8月1半旬まで高温傾向で推移しました。

降水量は、4月は多雨傾向で推移しましたが、7月は無降雨が続く小雨となりました。一転して、8月には大雨となった日が2日間ありました。さらに、9月2日には181.5mmの大雨となりました。

日照時間は、4月が平年比49%、5月、6月は平年比85%程度と少なくなりました。一転して、7月、8月はそれぞれ平年比147%、116%と多くなりました。

【生育状況】

8/25の管内水稻定点調査ほ（9地点、品種：あきたこまちR）の生育は、稈長が平年に比べて長く、穂長はやや長くなっています。本年は有効茎歩合（最高分げつ期の茎数のうち穂になった割合）が高くなっているものの、茎数が少ないことが影響し、穂数が平年より少なくなりました。1穂着粒数は平年より多くなったものの、穂数が少なかったため、 m^2 あたり着粒数はやや少なくなりました。稈長は長いものの、これまでのところ倒伏は少ない状況となっています。

○定点調査結果（9月7日までの調査結果より）

	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/ m^2)	有効茎 歩合 (%)	着粒数	
					(粒/穂)	(粒/ m^2)
本年	89.1	18.4	395	87.7	81.5	32,199
平年	82.4	18.1	439	84.9	76.8	33,424
前年	86.8	18.3	416	86.6	76.4	31,649
平年比較	108%	102%	90%	+2.8	106%	96%
前年比較	103%	101%	95%	+1.1	107%	102%

※平年は過去10カ年の9月15日現在の平均値

2 刈取適期の判定

○管内の出穂盛期（50％）は、平年より3日早い7月30日でした。積算気温による刈取目安によると、7月30日に出穂期を迎えた場合、9月5日には早生品種の刈り取りの目安となる950℃を超えています。早生品種では1100℃、中晩生品種では1200℃を超えると胴割れが懸念されます。刈り遅れに注意して下さい。

○実際の刈取適期は、収量（着粒数）や施肥体系等によっても前後します。出穂期からの積算気温を参考として、最終的な刈取時期の決定は、各ほ場の籾の黄化程度が90％に達した時期で判断してください。

出穂期	積算気温到達日				
	950℃	1000℃	1050℃	1100℃	1150℃
7月27日	9月2日	9月4日	9月6日	9月8日	9月10日
7月30日	9月5日	9月7日	9月9日	9月12日	9月14日
8月2日	9月9日	9月11日	9月14日	9月16日	9月19日
8月5日	9月13日	9月15日	9月18日	9月20日	9月23日
8月8日	9月16日	9月19日	9月22日	9月24日	9月27日
8月11日	9月20日	9月23日	9月26日	9月28日	10月1日

※9月8日以降のデータは平年値を使用。※管内の出穂盛期は7月30日。

【刈取適期の判定基準】

①籾の熟色

葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度が90％
（黄色＋黄白色の籾数の割合）の頃

②出穂後の積算気温（出穂期翌日から日平均気温を積算した値）

早生種：あきたこまち等・・・・・・950～1,050℃

中晩生種：めんこいな・・・・・・1,050℃

ひとめぼれ、ゆめおぼこ等・・・・1,050～1,150℃

③出穂後の日数

※本年は登熟速度が速いため刈り遅れに注意してください！

早生種：あきたこまち等・・・・・・出穂後45日頃

中晩生種：めんこいな・ゆめおぼこ等・・出穂後50日頃

刈
取
時
期
決
定

3 収穫～調製の留意点

○収穫時の籾水分は25％以下が望ましいため、作業時間帯は稲体が乾燥している午前10時～午後5時頃に設定しましょう。

○米選機の網目は1.9mmを基準とし、整粒歩合80％以上の高品質米を目指しましょう。

○秋の農作業事故に注意しましょう！（秋の農作業安全運動9月10日～10月20日）

■お米をJA・主食集荷商業組合加入業者以外へ直接販売している方は、ご自身の責任で確実に玄米カドミウム濃度を分析し、安全な米を販売してください。

■稲わら焼きは県条例で原則禁止されています。特に、周辺に影響が出やすい10月1日～11月10日までの間、全面的に禁止しています。

不明な点がございましたら、山本地域振興局農林部農業振興普及課（Tel.52-1241）までご連絡ください。